


大隈重信記念館
OKUMA MEMORIAL MUSEUM

佐賀市大隈重信記念館

入館料	
大人	330円
子ども (小学生以下)	160円
個人	220円
団体 (20名以上)	110円

閉館時間

開館	9時00分
閉館	17時00分
※最終入館	16時30分

但し、毎週月曜日は休館です。
月曜日が祝日の場合は閉館し、翌平日が休館日となります。





大隈記念館を訪ねて

2023年9月25日





大隈重信記念館

OKUMA MEMORIAL MUSEUM

世界的政治家として、また早稲田大学の創設者として有名な大隈重信の生誕125年を記念し、昭和41年11月、大隈重信記念館が落成しました。

設計は早稲田大学名誉教授・今井兼次博士の手によるもので、昭和42年10月、建設委員会から佐賀市に寄贈され開館にいたりました。

平成27年2月にリニューアルオープンした館内では、大隈重信に関する歴史資料を展示するほか、大隈侯の功績を紹介しています。





大隈重信之像

大隈重信(1838-1913)は、明治維新の功臣として知られる政治家・軍人である。欧米列強に倣った近代化を推進し、日本を世界列強国へと導いた。その功績は、日本の歴史に深く刻み込まれている。

大隈重信の功績は、日本の歴史に深く刻み込まれている。彼は、明治維新の功臣として知られる政治家・軍人である。欧米列強に倣った近代化を推進し、日本を世界列強国へと導いた。その功績は、日本の歴史に深く刻み込まれている。



大隈・三井子・綾子肖像

明治26年(1893) 油彩

大隈の母・三井子の米寿の祝いに際し、大隈と三井子、妻・綾子の3人の姿が描かれたもの。

佐賀が生んだイノベーター 大隈重信の偉業

！ 大隈重信のここがすごい！



鉄道をつくった！

明治時代のはじめ、日本では人力車や飛脚など、まだ人の力で人やモノを運んでいました。大隈は世の中をもっと便利にするために全国に鉄道を通そうと構想。陸地を通せなかった場所は、あきらめることなく、海の上に堤防(高輪築堤)を築き日本初の鉄道を通すことを実現しました。



通貨「円」をつくった！

明治初期は旧幕府や各藩が作った貨幣が同時に流通、さらに偽物の貨幣も出回り、大きな課題を抱えていました。大隈は貨幣制度の改革に着手し、
● 「一両＝四分」など四進法から、十進法を採用
● 長方形や楕円形など様々で使いにくかった硬貨の形を、便利な円形に統一など、世界に通じる日本の新しい通貨「円」を作りました。



日本のグランドデザインをつくった！

開放的で、議論好きだった大隈。東京・築地にある大隈の屋敷は「築地梁山泊」と呼ばれ、井上馨・伊藤博文・五代友厚・渋沢栄一など、後に活躍する若く優秀な人材が集い、新しい国づくりのために活発に議論をしていました。鉄道や電信、煉瓦街などの文明開化を象徴する事業の多くが、ここから発案されたとされています。



メロンをつくった！

大隈は多趣味の人で、園芸の愛好家でもありました。1884年、東京専門学校(現早稲田大学)に隣接する邸宅を本宅にすると、温室や菜園を設けて洋ランや菊、メロンなどを育てました。特にメロンが好物で、「毎日メロンを食べて、125歳まで生きる!」と語っており、「早稲田」という名前の新しい品種のメロンをつくり、マスクメロン協会も設立しました。

！ 大隈重信の偉業年表！

33歳

1871年／明治4年
通貨「円」の制定

34歳

1872年／明治5年
日本初の鉄道を開業(新橋～横浜間)
太陽暦の導入

43歳

1881年／明治14年
政策判断の基準となる統計データの必要性を認識し、統計院を創設。
自ら初代院長に就任

44歳

1882年／明治15年
「学の独立」を理念に東京専門学校を創設(後の早稲田大学)

60歳

1898年／明治31年
第8代内閣総理大臣に就任

63歳

1901年／明治34年
創立委員長として日本女子大学設立に尽力

76歳

1914年／大正3年
第17代内閣総理大臣に就任

得業式送辞

諸君は数年勉強の結果、

今日この名誉ある卒業証書を貰って初めて社会に出ていくが、

諸君が向かう所には種々の敵がたくさんいる。

道徳の腐敗あるいは社会の元気の沮喪そさうなどは

最も恐るべき敵である。

この敵に向かつて諸君は必ず失敗をする。

成功があるかも知れないけれども、成功より失敗が多い。

失敗に落胆しなざるな、

度々失敗するとそれで大切な経験を得る。

その経験によつて成功をもつて

期さなければならぬ。

ところで、この複雑な社会の大洋において、

航海の羅針盤となるのは学問である。

諸君は、その必要なる学問を修めたのである。

1897年

東京専門学校得業式兼創立15周年祝典より



得業式送辞

諸君は数年勉強の結果、
今日この名誉ある卒業証書を貰って初めて社会に出ていくが、
諸君が向かう所には種々の敵がたくさんいる。
道徳の腐敗あるいは社会の元気の温喪などは
最も恐るべき敵である。
この敵に向かって諸君は必ず失敗をする。
成功があるかも知れないけれども、成功より失敗が多い。
失敗に落胆しなさんな、
度々失敗するとそれで大切な経験を得る。
その経験によって成功をもって
さなければならぬ。
ところで、この複雑な社会の大洋において、
航海の羅針盤となるのは学問である。
諸君は、その必要なる学問を修めたのである。

1897年

東京専門学校 得業式兼創立**15**周年祝典より



大隈重信が使用した義足

アメリカ A.A.マークス社製

明治22年(1889)10月、当時外務大臣を務めていた大隈は、外相官邸前で暴漢に襲われ、右脚を切断するという重症を負った。その後使用することとなった義足のうちの1本。

当時最高といわれたアメリカ A.A.マークス社製の義足だが、日本の座る生活様式にはあまり合わず、ひざ関節が破損しやすかった。